

自 ブライダル企業の働き方改革

ワークシェア表を作成し スタッフが相互に補完しあえる体制に フェアリー・テイル

育児や家庭の環境により女性の働き方には、様々なニーズがある。それを実現するために、ワークシェアや待遇、働く時間の時短などとともに正社員やパートタイムなどのキャリアステージややりがいなども考えていく必要がある。

「素敵にたかまつ女性活躍企業表彰」 高松市創設の表彰5社に 選ばれる

フェアリー・テイル(香川県高松市、藤田徳子社長)が、平成28年度に高松市が創設した第1回「素敵にたかまつ女性活躍企業表彰」の表彰企業に選ばれた。3月2日には、高松市役所で表彰式が行われ、大西高松市市長から表彰状と記念品を授与された。

「素敵にたかまつ女性活躍企業表彰」制度は、高松市が、市内の企業における女性の登用や活躍を推進するために平成28年度に初めて創設されたもの。女性の育成や登用、職場環境の改善など女性の活躍に積極的に取り組んでいる企業として、高松市内の事業者5社とともに受賞した。

受賞にあたり、同社が市から評価されたポイントは女性が多い職場の特長を生かし、家庭の事情に合わせた柔軟な働き方(子ども同伴出勤、自宅勤務、勤務時間短縮など)が可能なことや、産休・育休取得後でも正社員の待遇(役職・給与面)をそのまま時短扱いで雇用する取り組み、ワークシェア表やキャリアアッププログラムの活用などが評価された。

同社は、平成10年の創業以来、「一生輝いて生きる」ための節目＝結婚式創りを基本方針に掲げ、従業員

や、結婚されるお客様も含め、すべての女性が“輝く”働き方を模索してきた。中小企業だからこそできる体制づくりと仕事をしっかりと見極め、それを分業できる仕組みを徐々に整備してきた。

ワークシェア表などを整備し 仕事内容を明確化

スタッフが長く働ける環境のために、結婚式のプロデュースもどのタイミングでどんな仕事が発生しているか、そしてそれを上手に分業していくようなワークシェア表を作成し、スタッフ全員で見える化した。そしてメインとサブの担当をワークシェア表に合わせて設定。仕事を明確化するとともに、だれが担当しているかも決めていくことで、あいまいな部分をなくした。

これにより、メインの担当が休んで

いる場合でも、しっかりとサブの担当がサポートできる体制を確立し、スタッフが家庭や子育てなどの状況に合わせて時短勤務を行ったり、休みが取りやすいようにしている。ワークシェア表で明確になった仕事を複数のスタッフで分け合い、確認できる体制にするという仕組みを作るために、全スタッフで、会議を重ね、仕事の洗い出しと誰がどこを担当するかを明確にしていった。

パートタイムでも正社員と 役職や権限で差を付けず

また、家庭の状況によっては、正社員ではなくパートタイムの働き方を希望するスタッフもいるが、そういったスタッフも正社員と役職や権限においては差別することなく与えている。これは正社員の場合、1日何時間や週



平成28年度に創設された賞に選ばれた。



に何日などの拘束状況が生まれてきてしまうが、家庭の事情やそこまでバリバリ働きたくないが、社会と接点を持ち、人の役に立つ仕事をしたいと考える女性は一定数いる。実際に同社には、パートタイムの働き方を選ぶ現場リーダーを務めている女性スタッフが2名いる。

そのうち1名は、もともと同社のお客として、結婚式を挙げた新婦だ。手先が器用なことから手作りアイテムの製



接客タイミングごとに分けられており、状況がわかるようになっている。



スタッフ同士で話し合いを徹底して行い、どんな業務がどのタイミングで発生しているかなどを明確化し、ワークシェアができるようにした。

作を自宅勤務で委託したことから同社とは仕事面で関わるようになり、徐々に業務の領域を広げながら、キャリアアップをしてきた。本人の希望として正社員という働き方ではなくパートタイムでの働き方を選び今に至る。パートタイムでも正社員と差別することなく権限を付与することで、スタッフにとっては、やりがいのある仕事に就く一方で、プライベートや子育ての面も充実できるライフとワークのバランスが取れたスタイルが確立できるようになっている。

『「ブライダルプロデュース』は、女性ならではの気配りや感性などが求められるという考えから、お客様の『ニーズ』と働く従業員の『やりがい』がマッチしてこそ“輝かしい結婚式”が生まれると考えています。今回の受賞は、子育てをしながら経営者を務める私自身はもちろん、弊社で活躍する女性従業員にとっても、更にはお客様にとっても、「働く女性」「働く母」としての自信を確認する機会になったこと

は言うまでもありません」と語る同社代表の藤田徳子氏。



フェアリー・テイル 社長
ブライダル・プロデューサー
藤田 徳子

1972年岡山県倉敷市生まれ。実家は、演舞場・歌舞伎座・近代の映画館と、130年以上続いた倉敷の老舗劇場。「他人様に非日常感という愉しみを提供する」ことを旨として育つ。神戸女学院大学に進学後、体育会チアリーディング部 創部キャプテンを務め、他大学のアメフト部との提携から、運営スポンサー集めなど渉外活動に奔走した。大学卒業後は、広告代理店に勤務。媒体交渉などを手掛ける。自身の結婚の折、当時のブライダル業界に疑問を感じ、1998年、ブライダル・プロデューサー フェアリー・テイルを起業。アートの島「直島」、「史跡高松城跡」、「栗林公園」などで、すべて「史上初」結婚式をプロデュースした実績を持つ。Good Wedding Award 2012 全国準グランプリ受賞、第3回女性起業家大賞奨励賞受賞など数々の受賞歴をもつ。